

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成27年5月8日

**【四半期会計期間】** 第37期第2四半期(自平成27年1月1日至平成27年3月31日)

**【会社名】** 株式会社ステップ

**【英訳名】** STEP CO.,LTD.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 龍井郷二

**【本店の所在の場所】** 神奈川県藤沢市藤沢602番地

**【電話番号】** 0466(20)8000(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役常務執行役員 新井規彰

**【最寄りの連絡場所】** 神奈川県藤沢市藤沢602番地

**【電話番号】** 0466(20)8000(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役常務執行役員 新井規彰

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第36期 第2四半期累計期間	第37期 第2四半期累計期間	第36期
会計期間		自 平成25年10月1日 至 平成26年3月31日	自 平成26年10月1日 至 平成27年3月31日	自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日
売上高	(千円)	4,520,800	4,691,220	9,104,391
経常利益	(千円)	1,160,842	1,132,219	2,220,309
四半期(当期)純利益	(千円)	725,160	703,122	1,355,816
持分法を適用した場合の 投資利益	(千円)			
資本金	(千円)	1,778,330	1,778,330	1,778,330
発行済株式総数	(株)	16,670,000	16,670,000	16,670,000
純資産額	(千円)	13,898,217	14,836,140	14,330,678
総資産額	(千円)	16,212,524	17,619,999	17,314,395
1株当たり四半期 (当期)純利益金額	(円)	43.51	42.18	81.34
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
1株当たり配当額	(円)	12.00	12.00	24.00
自己資本比率	(%)	85.7	84.2	82.8
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	1,107,409	1,020,389	2,000,393
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	680,503	597,249	1,053,300
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	630,352	539,518	197,712
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	1,349,537	2,185,987	2,302,365

回次		第36期 第2四半期会計期間	第37期 第2四半期会計期間
会計期間		自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日	自 平成27年1月1日 至 平成27年3月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	18.84	16.44

- (注) 1. 当社は、四半期連結財務諸表を作成していませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載していません。
2. 売上高には、消費税等は含まれていません。
3. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社が存在しないため記載していません。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間における、本四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生、又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要な事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものです。

#### (1) 業績の状況

当社は、ほとんどの教師を正社員として、授業内容の専門化・高技術化に努め、その授業力を大きな支えとして進学実績の充実に力を入れています。

平成27年3月末日において、中高全教師614名中、正社員教師590名、専任講師14名、講師10名（うち5名はネイティブ講師）となり、正社員率で96.1%、専任比率で98.4%に達しています。これらの教師陣が不断の自己研鑽を重ね、教務力の強化を図っています。

大幅に刷新された公立高校新入試制度の3年目となった今春の神奈川県の高校入試でしたが、昨年度に引き続き全体として学力検査の出題レベルが上がり、さらにトップ高校をはじめ多くの上位校において倍率がこれまでになく上昇したため、受験生にとっては緊迫した雰囲気の中での入試となりました。そのような状況の中、当社の小中学生部門から神奈川県の高校19校に1,918名が合格しました。これは県内公立高校に合格したステップ生の41.1%に相当します。これら公立トップ高校の半数以上の11校において、また公立トップ高校の中で新制度の特徴の一つである特色検査を実施した12校のうち半数に当たる6校において、塾別の合格者数で当社がトップとなっています。

また、ステップ生の通学圏内で最難関と位置づけられる国立東京学芸大附属高校への今春の合格実績は、同校の外部進学生用の定員106名のうち52名を占め、7年連続で全塾中トップの実績を残すことができました。

当社が小中学生部門と並んで注力している高校生部門も、ここ数年、特に人材育成に力を入れてきましたが、その成果として各専門科目の教師陣の層が厚くなってきています。今春の大学進学実績を見ると、東京大学の合格者数が昨年比で大きく伸びたほか、多くの国公立で堅調な結果となっています。また私立においても、同じく昨年比で早慶上智が184名 274名、いわゆるMARCH+東京理科大が682名 946名と大幅に合格実績を伸ばすことができました。業界全体としては、生の授業を映像授業に置き換える動きや個別指導化が進んでいますが、当社はあくまでも教師の息吹が伝わるライブ授業をベースとし、良きライバルが切磋琢磨し合う集団指導のメリットを活かして、全体としての競争力を強化していきます。

当事業年度の新規開校は、小中学生部門の3スクール(東急東横線の大倉山、東急田園都市線のたまプラーザ、江田)と高校生部門の2校舎(JR東海道線の戸塚、横浜市営地下鉄のセンター南)です。当社のドミナントエリアをさらに充実する形となっています。その結果、スクール数は現状、小中学生部門が115スクール、高校生部門は14校、個別指導部門1校の計130校です。なお、7月には東急田園都市線の市が尾に小中学生部門のスクールを追加開校する予定です。

生徒数の伸びは、小中学生部門、高校生部門ともに全体として着実なペースを維持しており、塾生総数で見た当第2四半期累計期間の生徒人数平均は前年同期比4.7%増となっています。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は4,691百万円（前年同期比3.8%増）、営業利益は1,109百万円（前年同期比3.2%減）、経常利益は1,132百万円（前年同期比2.5%減）、四半期純利益は703百万円（前年同期比3.0%減）となりました。

## （2）財政状態の分析

### 資産

当第2四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末比305百万円増の17,619百万円となりました。

流動資産は、現金及び預金の減少等により前事業年度末比97百万円減の2,725百万円となりました。

固定資産は、スクール移転用地取得による土地の増加等により前事業年度末比402百万円増の14,894百万円となりました。

### 負債

当第2四半期会計期間末における負債は、前事業年度末比199百万円減の2,783百万円となりました。

流動負債は、借入返済による減少はありましたが、未払金の増加等により、前事業年度末比26百万円増の1,776百万円となりました。

固定負債は、長期借入金の返済等により前事業年度末比226百万円減の1,007百万円となりました。

### 純資産

当第2四半期会計期間末における純資産は、配当金の支払がありましたが、四半期純利益の計上等により、前事業年度末比505百万円増の14,836百万円となりました。

これにより、自己資本比率は前事業年度末に比べ、1.4ポイントアップの84.2%となりました。

## （3）キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

当第2四半期累計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は前年同四半期累計期間末に比べ836百万円増加（前年同期比62.0%増）し、2,185百万円となりました。

### 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は1,020百万円（前年同期比7.9%減）となりました。

これは主に、税引前四半期純利益が1,132百万円あった一方、減価償却費191百万円、法人税等の支払額460百万円があったこと等によるものです。

### 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は597百万円（前年同期比12.2%減）となりました。

これは主に、有形固定資産の取得による支出570百万円によるものです。

### 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は539百万円（前年同期比14.4%減）となりました。

これは主に、長期借入金の返済による支出331百万円、配当金の支払額199百万円があったこと等によるものです。

## （4）事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

## （5）研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	46,880,000
計	46,880,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成27年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年5月8日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	16,670,000	16,670,000	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数は100株です。
計	16,670,000	16,670,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成27年1月1日～ 平成27年3月31日		16,670		1,778,330		1,851,330

(6) 【大株主の状況】

平成27年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(有)ケー・プランニング	神奈川県茅ヶ崎市浜竹3丁目4-55	4,660,500	27.95
龍井 郷二	神奈川県茅ヶ崎市	1,302,800	7.81
ビービーエイチ フォー フィデリティ ロープライズ ストック ファンド (常任代理人(株)三菱東京UFJ銀行)	東京都千代田区丸の内2丁目7-1	1,240,000	7.43
龍井 喜久江	神奈川県茅ヶ崎市	1,071,600	6.42
STEP社員持株会	神奈川県藤沢市藤沢602番地	940,980	5.64
日本トラスティ・サービス信託 銀行(株)(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	933,500	5.59
(株)横浜銀行 (常任代理人 資産管理サービス 信託銀行(株))	東京都中央区晴海1丁目8-12 (東京都江東区福住2丁目5-4 日本電子計算(株)BPOサービス部横浜気付)	320,000	1.91
バンク オブ ニューヨーク ジーシーエム クライアント アカウント ジェイピーアール デイ アイエスジー エフィー エイシー (常任代理人(株)三菱 東京UFJ銀行)	東京都千代田区丸の内2丁目7-1	239,015	1.43
ビービーエイチ フィデリ ティ ピューリタン フィデリ ティ シリーズ イントリン シック オポチュニティズ ファンド (常任代理人(株)三菱東 京UFJ銀行)	東京都千代田区丸の内2丁目7-1	217,000	1.30
ビービーエイチ ポストン フォー ノムラ ジャパン ス モラー キャピタライゼイ ション ファンド 620065 (常任代理人(株)みずほ銀行決済営 業部)	東京都中央区月島4丁目16-13	198,700	1.19
計		11,124,095	66.73

- (注) 1 上記日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社の所有株式数は、信託業務に係る株式数です。  
2 上記のほか、自己株式1,633株(0.00%)があります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,600		
完全議決権株式(その他)	普通株式 16,666,500	166,665	
単元未満株式	普通株式 1,900		
発行済株式総数	16,670,000		
総株主の議決権		166,665	

(注)「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構の株式が1,000株含まれています。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数10個が含まれています。

【自己株式等】

平成27年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社ステップ	神奈川県藤沢市藤沢602番地	1,600		1,600	0.00
計		1,600		1,600	0.00

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間において役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しています。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間(平成27年1月1日から平成27年3月31日まで)及び第2四半期累計期間(平成26年10月1日から平成27年3月31日まで)に係る四半期財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けています。

### 3. 四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成していません。



1 【四半期財務諸表】  
(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年9月30日)	当第2四半期会計期間 (平成27年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,562,525	2,446,576
売掛金	49,466	49,988
たな卸資産	27,528	66,986
その他	184,595	163,355
貸倒引当金	1,060	1,217
流動資産合計	2,823,055	2,725,690
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	6,140,530	6,154,035
土地	7,529,385	7,907,711
その他（純額）	187,225	204,517
有形固定資産合計	13,857,141	14,266,265
無形固定資産		
	32,729	29,380
投資その他の資産		
敷金及び保証金	414,118	421,185
その他	187,350	177,478
投資その他の資産合計	601,468	598,664
固定資産合計	14,491,340	14,894,309
資産合計	17,314,395	17,619,999
<b>負債の部</b>		
流動負債		
1年内返済予定の長期借入金	631,732	529,933
リース債務	13,929	14,816
未払金	64,015	201,180
未払法人税等	475,884	405,528
賞与引当金	67,458	16,568
その他	497,298	608,823
流動負債合計	1,750,319	1,776,849
固定負債		
長期借入金	909,575	680,150
リース債務	25,893	26,043
役員退職慰労引当金	140,700	140,700
資産除去債務	146,701	146,956
その他	10,527	13,159
固定負債合計	1,233,397	1,007,009
負債合計	2,983,717	2,783,858

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年9月30日)	当第2四半期会計期間 (平成27年3月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,778,330	1,778,330
資本剰余金	2,072,251	2,072,251
利益剰余金	10,477,168	10,980,270
自己株式	464	464
株主資本合計	14,327,285	14,830,387
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3,392	5,752
評価・換算差額等合計	3,392	5,752
純資産合計	14,330,678	14,836,140
負債純資産合計	17,314,395	17,619,999

## (2) 【四半期損益計算書】

## 【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年3月31日)
売上高	4,520,800	4,691,220
売上原価	3,005,593	3,216,105
売上総利益	1,515,206	1,475,114
販売費及び一般管理費	369,274	365,821
営業利益	1,145,932	1,109,293
営業外収益		
受取利息	83	88
受取家賃	43,137	45,005
その他	4,559	6,156
営業外収益合計	47,780	51,250
営業外費用		
支払利息	5,841	3,257
賃貸費用	26,874	24,740
その他	154	326
営業外費用合計	32,870	28,324
経常利益	1,160,842	1,132,219
特別損失		
減損損失	19,498	145
特別損失合計	19,498	145
税引前四半期純利益	1,141,343	1,132,073
法人税、住民税及び事業税	397,879	390,036
法人税等調整額	18,303	38,914
法人税等合計	416,183	428,950
四半期純利益	725,160	703,122

## (3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

	(単位：千円)	
	前第2四半期累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	1,141,343	1,132,073
減価償却費	196,765	191,124
減損損失	19,498	145
貸倒引当金の増減額（は減少）	90	156
賞与引当金の増減額（は減少）	48,326	50,890
受取利息及び受取配当金	248	253
支払利息	5,841	3,257
売上債権の増減額（は増加）	9,111	522
たな卸資産の増減額（は増加）	54,008	39,457
未払金の増減額（は減少）	123,218	91,475
前受金の増減額（は減少）	136,196	154,845
その他	15,281	1,468
小計	1,514,020	1,483,423
利息及び配当金の受取額	216	221
利息の支払額	5,402	3,050
法人税等の支払額	401,425	460,204
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,107,409	1,020,389
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	665,310	570,785
貸付金の回収による収入	1,439	2,049
敷金及び保証金の差入による支出	13,852	20,136
敷金及び保証金の回収による収入	8,500	13,069
その他	11,280	21,446
投資活動によるキャッシュ・フロー	680,503	597,249
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	423,000	331,224
ファイナンス・リース債務の返済による支出	6,616	8,703
配当金の支払額	200,736	199,591
財務活動によるキャッシュ・フロー	630,352	539,518
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	203,446	116,377
現金及び現金同等物の期首残高	1,552,984	2,302,365
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,349,537	2,185,987

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(四半期貸借対照表関係)

たな卸資産の内訳は次のとおりです。

	前事業年度 (平成26年9月30日)	当第2四半期会計期間 (平成27年3月31日)
商品及び製品	17,380千円	60,163千円
仕掛品	9,236 "	6,033 "
原材料及び貯蔵品	911 "	789 "

(四半期損益計算書関係)

販売費及び一般管理費の主なもの

	前第2四半期累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年3月31日)
広告宣伝費	161,371千円	170,329千円
貸倒引当金繰入額	"	156 "
賞与引当金繰入額	407 "	572 "

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年3月31日)
現金及び預金勘定	1,609,626千円	2,446,576千円
預入期間が3か月を超える 定期預金等	260,088 "	260,589 "
現金及び現金同等物	1,349,537千円	2,185,987千円

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自 平成25年10月1日 至 平成26年3月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年12月13日 定時株主総会	普通株式	200,020	12.00	平成25年9月30日	平成25年12月16日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年4月28日 取締役会	普通株式	200,020	12.00	平成26年3月31日	平成26年5月26日	利益剰余金

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自 平成26年10月1日 至 平成27年3月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年12月12日 定時株主総会	普通株式	200,020	12.00	平成26年9月30日	平成26年12月15日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年4月28日 取締役会	普通株式	200,020	12.00	平成27年3月31日	平成27年5月22日	利益剰余金

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自平成25年10月1日至平成26年3月31日)  
当社は、学習塾事業の単一セグメントであるため、記載を省略しています。

当第2四半期累計期間(自平成26年10月1日至平成27年3月31日)  
当社は、学習塾事業の単一セグメントであるため、記載を省略しています。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりです。

項目	前第2四半期累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年3月31日)
1株当たり四半期純利益金額	43円51銭	42円18銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	725,160	703,122
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	725,160	703,122
普通株式の期中平均株式数(株)	16,668,367	16,668,367

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第37期(平成26年10月1日から平成27年9月30日まで)中間配当については、平成27年4月28日開催の取締役会において、平成27年3月31日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	200,020千円
1株当たりの金額	12円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成27年5月22日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年5月8日

株式会社ステップ  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 水野 雅史 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 細野 和寿 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ステップの平成26年10月1日から平成27年9月30日までの第37期事業年度の第2四半期会計期間(平成27年1月1日から平成27年3月31日まで)及び第2四半期累計期間(平成26年10月1日から平成27年3月31日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ステップの平成27年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。